

竹屋陶板浴社長
京子のつぶやき
心に残ることば

No.95

「好きな言葉はありますか」など聞かれたことはあるがいままで特段思い当たる言葉はなかったような気がします。それが最近気になる言葉によく出会うってことは私の心の中に響くものがあるのでしょうか。

築地本願寺の住職さんが「今の時代災害や事故など何が起こるか、明日をもわからない世の中です。ですので『一日一生』ですよ」と語っていました。また、無実の罪で29年間刑務所で過ごした布川事件の桜井さんは「31才で無期懲役と有罪判決が確定した時から、刑務所の中でも日々の暮らしのなかで、喜びや楽しみを見出し生きていくと決めた。『人生は一度限り今日は一日限り』だからどこに居ようともその中で楽しみながら生きていくと決めた。もちろん刑務所は楽しいところではないし、嬉しいところではない、でも日々の中で楽しく生きていくと決めた。野球をするときには野球を楽しむし、仕事（刑務作業）をするときには仕事を楽しむ」と話しています。それ以後、私も目覚めたときは心の中で「一日一生」それに付け加え「わくわく一日」と言っている自分がいます。この意識ってコロナ禍だからでしょうか、それとも年齢のせいなののでしょうか。マスコミなどは人生100年時代とキラキラ輝いて映されますが、私はまだまだ現実のものにはなっていません。どんな人生を歩もうが一日一生と思いながら過ごせば悔いがない過ごし方ができるかなと思う今日この頃です。

人生の楽しみ方もお客様に教えて頂いています。ある方はお店屋さんで草花を買って植えるより「実生や挿し木などで育てたものが好きなのよ」と話していました。その時は「フウン、そんなもんかな、大きくなるには時間もかかるだろうに、気が長い性格なのかな」と、穏やかそうなその方の人柄と重ねて聞いていましたが、その気持ちや楽しみ方が私にも判ったのです。陶板浴の庭には様々な草花が顔を出します。いつの間にかこんな所から芽を出していたのと思う場所で新芽に出会うことがあります。その新芽が気になるようになったのです。「今日も元気かな頑張ってるね」と目がいくのです。すると買って植えた草花よりも同じ草花なのになぜか愛おしくなってくるのです。これって先日感じたことでも同じでした。「家の犬は23万して可愛いぞ」と話した方がいましたが、それはそれはきっと可愛いのでしょう。でも我が家の犬は雑種ですが、今は息子家族が育てています。その犬と見比べてもきっと我が家の犬のほうが可愛いと思うと想うのです。これってどれだけ愛情をかけてる時間が永いかで決まるのかなと感じます。目の前のものを愛おしく大切に作る、これだけでも楽しい人生が歩める気がしてきます。

布川事件の桜井さんは本も出版され、5月5日の陶板浴の講演会に今回の講師としてお願いしています。生でお話を聞いてくださいね。